

ジョアンナ・セイバークさん 大阪淀川製鋼所訪問

淀川製鋼所、大阪工場

ジョアンナさんは、工場に向かう車中で、工場内に記念碑を建ててもらえたならと希望を話されました。いよいよジョアンナさんが工場正門前に到着。8月の下見時、お盆休みだったせいか、正門辺りは非常に静かでしたが、この日は車やトラックが右から左から引切り無しに出入りしていました。それを縫うように写真撮影をしました。しばらくすると、ジョアンナさんが「実はアメリカから花を持ってきた。それを敷地に手向けたい」といわれました。エスコートの女性と共に少し慌てました。元々工場や会社の人からは、正門前での写真撮影、散策は一向に構わない、と返事をもらっていたのですが、守衛さんが気にして、時々見ておられるため、ここで花を供えるのは、と懸念したのですが、幸い門前に植え込みがあり、守衛さんからは死角になるところがあったのでそこに座り、お父さん達のことをしばし忍んでもらうことにしました。赤い花を芝生に置き、腰掛けた途端にいろんな思いがこみ上げたのは一目瞭然でした。もしもっと沢山の時間があったなら、ジョアンナさんは号泣したことだろう、と思いました。残念ですが、行き交うトラックから身を守る為、そそくさとその場を離れなくてはならなりませんでした。

弁天埠頭

(車窓のみ。捕虜たちは船でどこに到着したのか) 神戸から船で大阪、更に電車に乗り、大阪工場へ、のルートを考えて、いくつかある中でこの埠頭に到着された可能性が高い。次の目的地に行く途中にあるので、運転手さんの厚意で寄ってもらいましたが、残念でした。今はすっかり様子が変わり、私が子供の時に覚えている港では無かったです。今旅行者は天保山の方で離発着し、この弁天埠頭は貨物のみの取扱い港となり、一般の人は立ち入り禁止になっていました。

大阪府警察本部

かつての憲兵隊跡地である為、車窓から説明。興味の範囲は分かりませんが、当時を示す絵を呈しました。

ミライザ大阪城 (旧陸軍第四師団司令部)

1931年建築のヨーロッパ中世の古城を模したこの立派な建物の司令部(地上3階、地下1階、コンクリート製)は、戦後大阪市警視庁、大阪府警本部、大阪市博物館として使用されてきましたが、その後は閉館。2017年10月、レストランとお土産店として、再オープンしました。上の階では夕刻ライトアップされた大阪城を間近に見ながらおしゃべりな高級感溢れる食事を楽しむのがコンセプトのようで、格好のデートスポット。ジョアンナさんと訪ねた4日の大阪は気温、湿度共に非常に高く、クーラーの心地よいミライザ大阪城に逃げ込み、しばし1階のカフェで涼を取り、休息。熱中症になるのを免れた感がありました。建物内に保存されているかつての司令部の威光を残す赤絨毯の階段・灯り・ステンドグラスに大勢集う若い人達を見て、ふとあの当時の人が知ると腰を抜かすほど驚くのではないかとすら思いました。

ピース大阪国際平和センター (大阪空襲で破壊された大阪砲兵工廠の一角)

大阪空襲の実相と犠牲者の追悼、戦争の悲惨さと平和の尊さを現在に伝えるミュージアム。大阪は私の出身地、しかも両親は中心地で育った為、私は幼いときから大阪城そして砲兵工廠の恐ろしい瓦礫を横に眺めながら祖母達の家に出かけていたので、この惨めな大阪を伝える「ピース大阪」に特にアメリカ人と出かけることには抵抗がありました。ルートの関係でこの見学が最後に

なったのは、私には内心ホッとしました。それでも今は観光客で溢れているなじみのある町々や通学した学校近くはかつての空襲の地。空襲で逃げ惑う様子の展示には一緒に見るのがはばかられました。途中にパンプキン爆弾の実物大の展示がありました。ジョアンナさんは全く知らなかったようで、説明すると、大変印象に残ったようで、これからもっと良く調べると話されました。彼女はニューメキシコにお住まいで、かつて、原爆の製造過程で実験を繰り返した砂漠地帯のある州なので、特に心動かされた様子でした。

◎ホテルにて聞き取り

「ピース大阪」を出て、待ってもらっていた車に乗った直後、恐ろしい雷と前が見えないほどの豪雨が始まり、エスコートの人と胸をなで下ろしました。行程途中で、ジョアンナさんが「見せたいものがある」とおっしゃったのですが、中々その機会が見つかりません。それは何と分厚いファイルだったのです。ゆっくり拝見したいので、ホテルに戻ってから見せてもらうことにしました。

そのファイルはお父さんが残された記録、収容所に届いた手紙の数々、写真、ジョアンナさんのお父さんへの聞き取り記録でした。長くなるので、以下箇条書きにします。

① お父さんの結婚式の時の写真：

お二人が本当に幸せそう！ずっと気になっていた「式の3日後、基地移動の命令を受けた」ことを尋ねると、新婦ルシールをおいて出発、再会したのは5年後だったそうだ。

② 手紙：

他の多くの収容所と異なり、時間はひどくかかったものの、家族との手紙のやり取りがあったと、そのいくつかを見せて頂いた。驚いたことに、これまでよく見たあらかじめタイプ打ちされ、チェックを入れるだけの俘虜郵便の葉書では無く、手書きの長い手紙だった。家族から届いたものにも検閲があり、軍部としてチャーリーさんに伝わると都合の悪い箇所は墨入れ、あるいははさみで切り取ってあった。

③ 淀川収容所にいた米捕虜の名簿：

外務省での交流会時、半分ほどのご家族がお父さんの戦後の PTSD のひどさを口にされた。が、ジョアンナさん達は、それほどでは無かった。概して家族思いのとても良い父だった、と話されました。名簿を見せてもらって驚きました、余白もほとんど無いほどにびっしりとタイプされた名前、名前、名前。きっとお父さんはこれを完成させるのに情熱を注ぐ余り PTSD が陰を潜めて行ったのでは無いかと思った。

④ 聞き取り：

お父さんの体験を聞き取り、資料を整理し、更に公文書館などで資料を取り寄せ、体験記を出版されました。一冊送って下さるとのことで、楽しみにしています。

⑤ バターン死の行進：<https://bataanmarch.com/register/civilian-individual/>

毎年、「行進」を記念してアメリカ本土で実施。1989年から始まり、当初の参加者は100名だったが、今は9000人を超えているとのこと。寄付金付きでの登録で参加可能、保護者付きなら13歳から可、老若男女の市民、兵隊も参加。健康状態に応じて様々なパターンがあるが、ジョアンナさんは毎年35ポンド（約16キロ）の米を担ぎ、26マイル（約42キロ）程を歩くそうです。ゴール直前地点で待っていたお父さんのチャーリーさんが杖をついて娘のジョアンナさんと凱旋する写真を見せてもらいました。ちなみにこのお米は貧しい人に寄付するそうです。フィリピンでは無く、本土でこのような活動が毎年あることをどのくらいの方がご存じでしょうか？

⑥ チャーリーさんが帰国時、持ち帰ったもの：

- ・天橋立の絵はがき（戦後、帰国を待つ間に大江山から天橋立を観光？）
- ・人形 2 体 （帰国時、日本の子供にもらう、とキャプションあり。）

⑦ 依頼：

淀川分所時代の写真。Roger Mansell サイトはよく見ておられますが、淀川工場にいた時の写真があれば欲しい、と頼まれました。空襲も激しくなり、1945 年 5 月京都の大江山に移動ですが、有るとすれば個人所蔵のものでしょうか？ どなたかヒントをお持ちでしょうか？

- ☆ ジョアンナさんには道中で工場内の見学が出来なかった理由を説明しました。が、やはり得心いかなかったようです。後日にエスコートの人からメールが来ました。「工場への立ち入りが出来なかったことは、ジョアンナさんにとって落胆だったようです。後で、問われました、三菱マテリアルは謝罪し記念碑を建てたのに淀鋼は何もしない。この違いは何故？と。ただ。ホテルで田村さんがジョアンナさんのファイルを見ながら熱心に尋ねたり写真を撮ったりされたことは彼女にとって大きな癒やしになったようです」。
- ☆ チャーリー・ジェームスさんが収容されていた淀川分所のことにはまだ分からないことが多いので、沢山質問をしました。それが少しでも心の安定に繋がるならうれしいです。淀川製鋼は戦後も鋼板を中心に会社が発展して来たようです。数年前にとてもおしゃれに修復・改装された JR 大阪駅の屋根、さいたま新都心駅、関西国際空港もこの会社の設計・施行と知りました。いつの日か、工場の敷地内に小さな記念碑でも建つことがあるでしょうか。

（報告：田村佳子）